自主防災組織の活動

やっぱり地域が大切
～西日本豪雨災害を体験して伝えたいこと～

広島県東広島市黒瀬町 洋国団地自治会
元会長 大野 昭慶

1 はじめに

私の住んでいる洋国団地は、呉市との境界に隣接する東広島市黒瀬町市飯田にある約50世帯程度の小さな団地です。

平成30年７月の豪雨災害では、その半数の家が山からの土石流に飲み込まれましたが、幸いなことに死傷者は１人も出ませんでした。

７月６日（金）、私は気象状況から大雨が降り災害が起こると判断し、午前中に２軒、避難場所の確認と避難の意思を確認するために家庭訪問しました。

１軒目は視野障害のある80代男性と高血圧症の70代女性の家庭でした。

２軒目は歩行困難な80代男性と90代女性の家庭でした。

避難時に支援が必要な家庭を中心に訪問したのです。

午後６時頃、防災ラジオで避難勧告の情報が流れたあとで、救援要請があり、自家用車で避難所の黒瀬保健福祉センターへ向かいました。この時点の災害状況は、黒瀬町で一番大きな黒瀬川が氾濫寸前、ため池も氾濫寸前で通行不能、東広島呉道路は交通規制がかかり、国道375号線という主要道路は大渋滞していました。

この時点での避難者はまだ２家族でした。

2 7月7日（土）の団地の災害状況

豪雨による浸水によって自家用車20台が流され、団地道路全般に流石土砂、家屋全般に土砂流入、団地内にある民営の工場には、流木が５ｍの高さまで積み重なり、今後の雨量・地震規模によっては二次災害が起こってもおかしくない状況でした。

3 日頃の防災対策

○団地役員会の協議・説明

・自主防災会マニュアルの作成
・雨天時・緊急時の薙認事項
・具体的には、川の状態の確認～その状態を「見守り対象者」に伝える

○一次避難場所の確認

・災害時に助けが必要な住民リスト作成
・緊急連絡の際の連絡表の作成

西日本豪雨災害の被災状況の発表資料

西日本豪雨災害の被災状況の発表資料

・緊急告知ラジオを全世帯に配布
・他には自治会で避難訓練も行いました。
・重度障害者については、障害者団体の防災研修会、防災講座に受講してもらうなど、その人に応じた訓練というのを行いました。

4 私自身の取組、日頃の活動

○気象庁の１年間の１日平均地震回数を調べました。その結果、全国で震度１～５の地震が１日平均18回も起こっていることが分かりました。

○団地付近の大平山という山へ登り、現地調査をしました。あちこちで多数の落石を発見。山全体が崩落の危険があると感じました。

○私は豪雨当日は近隣の人たちに事前に声掛けはしましたが避難の手伝いとかというのはありません。

○日頃からの防災対策と意識付けをしっかりと行っていたからこそ、死傷者が出ることなく済んだのだと患っています。

5 今後の取組

この豪雨災害経験を教訓にすることが大切です。今回の豪雨災害で「１人も犠牲者がなかった」ことは決してきれいな話ではありません。避難訓練の参加意識が低く避難訓練をする必要はないという声もあります。

団地内ではまだまだ共助が浸透していない方も多くおられるので、もっと共助の意識を持もつよう要支援者の体制の確立強化が必要だと感じました。

今後、南海トラフ大地震が予測されるので、若い世代に行動してほしいと思います。

このことはまだまだ解決できていない問題なので、しっかりと取り組んでいきたいと思います。

次に、団地内の避難訓練の意識はまだまだ低く地域的な早期避難訓練の確立と習慣化を進めていきたいと思います。

災害避難の合言葉

備えあれば憂いなし
共助＝三軒両隣＝声をかけ合う